北海道
日伊協会会報

VOL. 62号　2019年11月
発行　北海道日伊協会
事務局　札幌市中央区南１条東２丁目
ブライトサッポロ内
電話(011)241-0345 FAX (011)241-0567

定時総会開く　理事体制を充実

北海道日伊協会は 2019 年度総会を 7 月 20 日、札幌グランドホテルで開催し、副会長に米倉紘一理事が返り咲き、理事は新任 6 人を含む 13 人に増員、監査は新任 2 人とする新体制を決めました。三部安紀子会長は「知恵を出し合って盛り上げていきましょう」と挨拶しました。それに先立ち Salone d'Italia を開催、開会が迫った「カラヴァッジョ展」をテーマに谷古宇尚・北大大学院教授の講演「カラヴァッジョの放浪」と、イタリアの関連都市を取材した北海道新聞の土屋孝浩編集委員の現地報告を聞きました。（新体制表 2 ページに）

サローネ　谷古宇教授「カラヴァッジョの放浪」語る

サローネで谷古宇教授のカラヴァッジョを取り上げるのは 2 月の「カラヴァッジョとバロック美術」に次いで 2 回目。美術史の中での位置づけから、今回は“ならず者の殺人者にして人々を熱狂させる天才画家”というカラヴァッジョの放浪生活と作品に焦点を当てました。

また、カラヴァッジョの足取りを追って現地取材し、道新日曜版に大型連載を執筆中の土屋孝浩編集委員は、殺人のあった盛り場などゆかりの地の写真を示しながら、イタリア現地のカラヴァッジョ人気について語りました。

北海道立近代美術館のカラヴァッジョ展を控えて一般市民の関心も高く、通常より相当多い 100 人近くが詰めかけました。

総会後の懇親会では、新たに理事に就任した谷古宇教授、毛利昌・神戸大名誉教授、倉田稔・小樽商大名誉教授、斎藤洋介さん、山口玲子さんらが一言抱負を述べました。

総会・懇親会出席のメンバー

マリアンナさん母国で挙式
受講生らそろって祝福ツアー

4, 5 ページに詳報

スタラーチェ大使出席　カラヴァッジョ展オープン

北海道初めてのカラヴァッジョ展は8月10日から10月14日まで道立近代美術館で開催されました（名古屋会場10月26日～12月15日、大阪会場12月26日～20年2月16日）。オープニンセレモニーは8月9日午後、同美術館ホールで開かれ、スタラーチェ大使が出席されました。

カラヴァッジョ展のテープカット。左から3人目スタラーチェ大使

真作8点展示、2点断念

この展覧会にはカラヴァッジョの作品10点と周辺作家の31点の計41点が展示される予定でしたが、カラヴァッジョの２作品《女占い師》《瞑想するアッシジの聖フランチェスコ》と影響を受けた周辺作家の6作品の計8点の作品の到着が遅れ、展示断念となりました。しかし、《病めるバッカス》《リュート弾き》《メドゥーサの首》《法悦のマグダラのマリア》《聖アガピトゥスの殉教》《聖セバスティアヌス》《歯を抜く人》《洗礼者ヨハネ》の8つの真作が初めて北海道で展示され、7万人弱の入場者が、その圧倒的な力ある作品をゆっくりと鑑賞することができました。

多彩な理事体制に

副会長に米倉紘一氏復帰
新任 理事６人と監査２人

7月20日の総会で、理事会から役員体制の充実強化が提案され、承認されました。協会活動のサローネなどにより多様な充実した提案が期待されます。理事の任期は2年ですが、今回は役員改選期の20年7月総会までとなります。新体制は右表のとおりです。

新任の役員は懇親会でそれぞれ抱負を語った

北海道日伊協会　役員

◇**名誉会長**　ジョルジョ・スタラーチェ
（駐日イタリア共和国特命全権大使）
◇**会　長**　三部安紀子
◇**副会長**　金子　国彦
米倉　紘一（新任・前理事・元副会長）
◇**理　事**
浅原　健蔵
山田　晋筰（事務局担当）、
松浦　　茂
金川　道子、
菅原　明子、（事務局担当）
マリアンナ・チェスパ、
安田　　琢
＜**新任**＞
幸正　和典（前監査・元理事）
齋藤　洋介
（元札幌国際プラザ市民交流部長）
山口　玲子（ピアニスト）
毛利　　晶（神戸大学名誉教授）
倉田　　稔（小樽商科大学名誉教授）
谷古宇　尚（北海道大学大学院教授）
◇**監　査**　新任
寺鍛冶博史（元日本オリベッテイ）
村田　雄穂
（帯広イタリア言語文化教室主宰）
（敬称略、先任・入会順）

協会の通訳メンバー大活躍

カラヴァッジョ展ではオープニングにスタラーチェ駐日イタリア大使が祝辞を述べたのをはじめ、展示作業のため関係キュレーターなど多数のイタリア人が数日間仕事をしました。ここで会員のイタリア語通訳の出番。大使の通訳は石田咲子さんが務めたほか、一部作品の未着―展示断念に至る折衝文書の翻訳という仕事も発生しました。関わった全員が「カラヴァッジョ展」が上手くいくようにと、想定外の事態にも柔軟に多対応し、プライドを持ってやり遂げました。事務局も、依頼側の道新と通訳者・翻訳者との間に立って様々な調整に努めました。

祝辞に立つスタラーチェ大使㊧通訳する石田咲子さん

初めての通訳　乾 藍那

カラヴァッジョ展の開会式で、通訳の機会をいただきました。

イタリア語の通訳の仕事をしたのは初めてで、簡単な箇所を担当しただけで、本当に難しい通訳は、ベテランのお二人が行いました。お二人が通訳する所を初めて見て、自分の勉強不足を痛感しました。

なんとなくイタリア語を理解できても、それを自分の中で噛み砕き、綺麗な日本語にするというのは、はるかに難しいことです。

私が日本語からイタリア語へ通訳している時のことです。『ネクタイ』と言おうとして、cravatta と言う単語が出てきませんでした。

イタリアから帰国して一年以上経ち、簡単な単語が出てこなくなっていたのです。

ただ、そこで笑いが取れました。その時、私は『私のイタリア語でも、誰かを笑わせることができるんだ』と思いました。

でも、よく考えたら、皆を笑わせたのは、私の言えなかったイタリア語なのです。

なんともマヌケな話ですが、またイタリア語を使って仕事がしたいなと思いました。

実りの秋を味わって サローネ VINO

この時期イタリア各地で開催される Sagra(収穫祭)。北海道の Sagra とイタリアワインを共に楽しむ事をテーマとした SALONE VINO が、10 月 28 日 Mia Angela 池内店(札幌市中央区)で行われ、24 名が参加しました。

講師の近江谷広樹さん(法人会員㈱イーストンの商品開発部長)は、イタリアのワイナリーを廻ってワイン選定にも関わっているイタリアワインのスペシャリスト。

この日は、カサル ディ セッラ ヴェルディッキオ(白、マルケ州)、キャンティ チェッキ(赤、トスカーナ州)、マァジ カンポフィオリン(赤、ヴェネト州)をセレクトし、夫々「道産秋サケのマリネサラダ仕立て」「道産エゾシカとキノコのラグーソース」「伊達産黄金豚の“みすじ”を使った香草パン粉焼き」という料理に合わせ、最高のマリアージュを演出。会話も大いに弾みました。(菅原明子理事)

北海道日伊協会新年会　1月 24 日(金)に開催

同時開催の Salone d'Italia　検討中　　17 時から　札幌丸井今井大通り館 10 階「ミチノイエ」

サローネ CINEMA　キノ特別編第 3 弾（上映期間　近日決定）

「トスカーナの幸せレシピ」この映画は”グルメ界の神”になりそこなった元一流シェフと”神の舌を持つ天才”のアスペルガー症候群の青年が「若手料理人コンテスト」を目指して旅する。二人の友情を描く、イタリア発のハートウォーミングなロードムービーです。

今年春以降のサローネ CINEMA

亀井富士人コレクションから

■**『パンと恋と夢』**5 月 18 日（土）みべ音楽院ホール

会員の亀井富士人さん（江別）の約 100 本のイタリア映画コレクションからミニ解説付きで紹介いただいた。

キノ特別編　第 1 弾

■**「家族にサルーテ」**8 月 7 日（木）シアターキノ

初めて映画館で実施。終了後、館内キノカフェでキノの代表中島洋さんに「私とイタリア映画」について話していただき、懇談した。

中島さんは、「映画は 1 年に東京で 1200 本、札幌で 650 本上映される。そのうちキノは 220 本（昨年）やっているんですよ」と、重要な役割を紹介。イタリア映画については、『無防備都市』などネオリアリズムに衝撃を受けたといい、注目の 1 作に『暗殺の森』（ベルナルド・ベルトリッチ脚本・監督、1970 年）を挙げた。「カメラマンが語る映画の歴史という側面があり、1920 年代以降発展してきた映画技術の集大成、光と影の妙味、映画技法・文法のすべてが盛り込まれている。何度見直しても勉強になる」

キノ特別編　第 2 弾　■**「帰ってきたムッソリーニ」**11 月 7 日（木）シアターキノ

会報到着（事務局にあります）

■新潟イタリア協会　第14号

住職・関根正隆さんの連載は、日本で初めて和伊辞典を編纂した高橋久氏の数奇な物語に入った。本人の葬儀を務めて知ったという。ほかにイタリア各地の報告が満載。「イタリアの旬」第 4 回は、イタリア人も知らないプーリア州の秘境「グラヴィーナ」の洞窟教会、地下迷路を紹介。

会員の NATSUKI さんと過ごすクリスマス

12 月 1 日（日）札幌パークホテル

要予約　　1 万 3000 円

申し込み・問い合わせ

ブライトサッポロ　011 - 241・0345

編集後記　カラヴァッジョ展の興奮が残る。協会は通訳・翻訳の依頼を受けたが、作品の到着遅延をめぐる交渉など、突発的な業務が発生しストレスも多かったよう。「記憶に残る展覧会」を裏で支えた関係者に努力賞▼札幌のカラヴァッジョ展が閉幕し名古屋、大阪へと移ったと思ったら、東京五輪のマラソンと競歩を札幌開催とするニュース。開催都市の東京はカヤの外だったというから、都民や競技関係者が怒るのも無理はない。TV バラエティーやネットでは札幌は悪者。とんだとばっちりだが、さすがサッポロと言わせたい▼年が明ければ東京オリ・パラ一色かな。新しい出会いに期待しましょう　（金子）